市民参加を取り入れた公開による「新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技」の実施

新潟市　都市整備局都市計画部新潟駅周辺計画課　主査　古俣泰規

１　はじめに

新潟県と新潟市は、平成４年度から新潟駅周辺整備計画の検討を始め、平成１０年度には「新潟駅周辺整備基本構想」を、平成１２年度には計画づくりの指針となる「新潟駅周辺整備計画の策定方針」をとりまとめた。

これに基づき、県と市は、新潟駅の駅舎及び駅前広場の整備を図るため、広く専門家に呼びかけ、駅舎・駅前広場が一体となった優れた計画案（以下「基本計画素案」という。）を求めることとし、平成１３年度から１４年度にかけて、東日本旅客鉄道㈱の協力を得ながら、県民・市民の想いが活かされたものとなるよう市民参加を取り入れた公開による「新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技（以下「新潟駅コンペ」という。）」を実施した。

２　新潟駅コンペの概要

コンペを企画・運営する機関として、関係者からなる「企画会議」を平成１３年４月に設置、同年１０月に市民による「新潟駅コンペ市民窓口委員会」を、１１月には、学識経験者と関係機関からなる「審査委員会」を設置した。

競技方式は二段階審査方式とし、第一段階審査では、基本的コンセプトやイメージ図等を示す作品を募集し、基本計画素案を作成するのにふさわしい５名を選定した。そして第二段階審査では、第一段階審査通過者が統括する、建築・土木・都市計画・造園の各分野に精通するメンバーからなる共同体を構成し、詳細な図面や模型等、さらに具体的な作品の提出を受け、審査委員によるヒアリングを経て最優秀作品を選定する流れとした。

（図－１）

また、主催者である県と市は、コンペ専用のホームページを立ち上げ、競技の過程をできるだけオープンにすることで、市民が参加しやすい環境づくりに努めた。

３　市民参加の方法

3.1　新潟駅コンペ市民窓口委員会

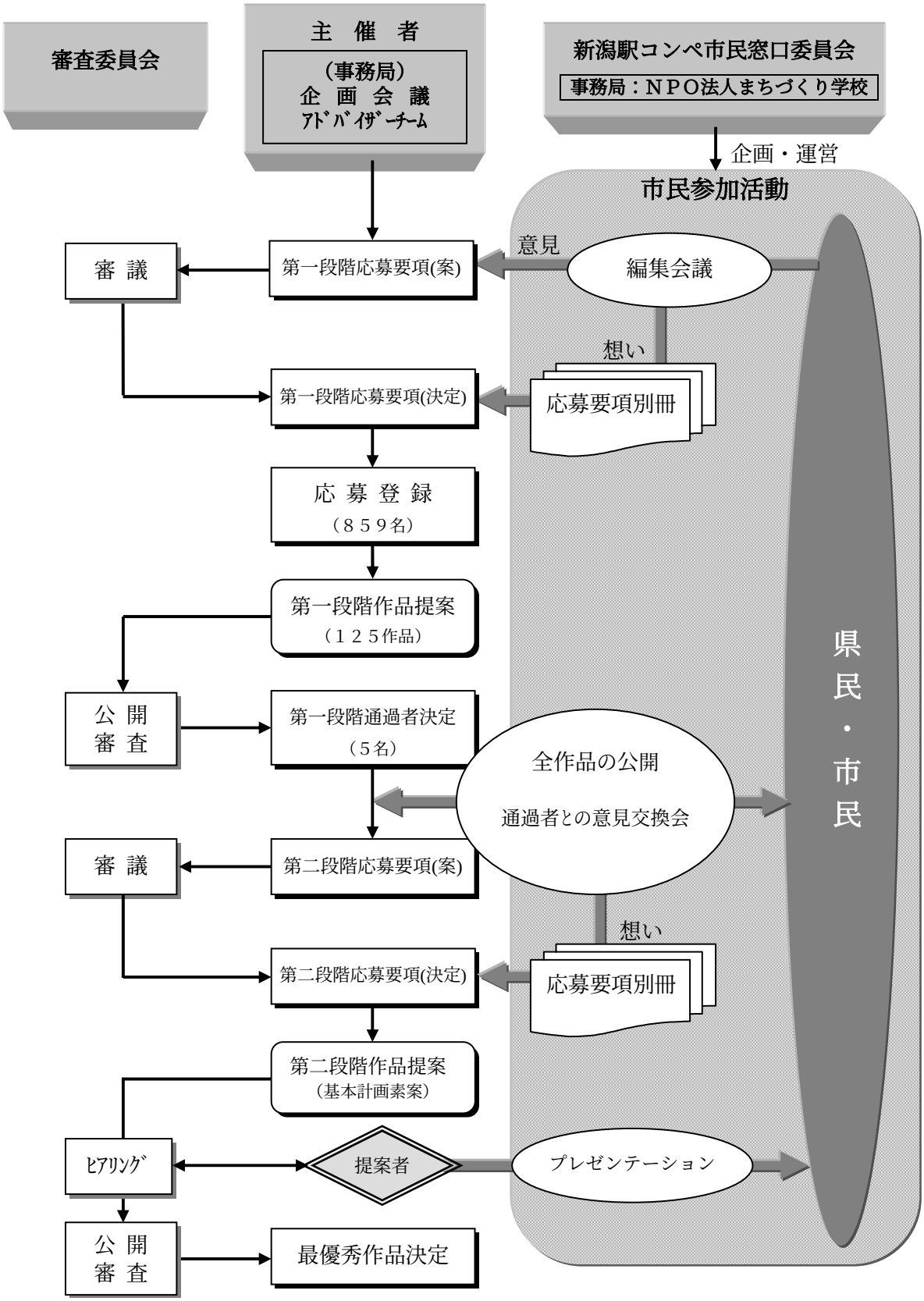
新潟駅周辺整備計画の検討を進めるにあたり、シンポジウムや住民アンケート調査等を行ってきたが、そこでは「計画づくりへの市民参加」を求める意見が多くあった。

主催者としては、市民が主体となって自発的に組織づくりを行うことが理想的と考えた。そこで、まちづくりに関して市民参加活動を行っているＮＰＯ法人「まちづくり学校」に、本コンペを開催するに至った経緯を説明し、市民参加を実現させる組織の設立から運営までを依頼した。

「まちづくり学校」は、経済・建築・市民参加活動等の各分野から人選を行い、いずれも新潟に根ざした市民活動の経歴がある６名に、市民参加組織の委員として活動し、本コンペにおける市民参加活動をリードしていくことを依頼した。

図－１

「新潟駅 駅舎・駅前広場計画提案競技」の進め方



組織の役割を、市民の想いを主催者に伝える窓口的な存在として活動することとし、その会の名称を「新潟駅コンペ市民窓口委員会（以下「窓口委員会」という。)」とした。

駅舎や駅前広場に対して市民が抱く様々な想いを集約せずにまとめ上げることは、単なる意見・要望の羅列に終わってしまう恐れが多分にあったが、どのようにして市民意見を応募者に伝えてきたかについて、コンペの進行に合わせて紹介する。

3.2　第一段階競技に向けた活動

「窓口委員会」では、主催者のホームページとは別に独自のホームページを立ち上げるとともに、各種マスコミを利用した広報に努め、新潟駅情報ステーションバナナ（情報提供スペース）に設置した意見箱やＦＡＸ・Ｅ－ｍａｉｌを利用して、駅舎及び駅前広場に関する意見を募集した。

これらの意見と、これまでの新潟駅周辺整備について意見交換を行う場等で出されていた意見とを併せ、公募により参集した市民による編集会議を経て、応募要項の別冊となる「市民の想い」が作成された。

「市民の想い」には、駅舎及び駅前広場に対する市民の意見が具体的に盛り込まれており、応募要項の別冊としての位置づけとしたため、コンペの応募者が市民の意見を把握することを容易にするとともに、市民も自身の意見が反映されたかについて、作品を通して確認することができた。

このことは「市民の想い」が、応募者・市民双方にとって、意義あるものになったと考える。

3.3　第二段階競技に向けた活動

平成１４年７月の作品締め切りには、海外からの応募を含め、１２５点の作品応募があり､同年８月に開催した第一段階審査会において､５名の第一段階審査通過者が決定した。

第一段階審査の結果を受けた「窓口委員会」は、通過者が第二段階競技のための作品制作に取り掛かる前に、更に、市民の意見を伝える目的で､「市民と第一段階審査通過者との意見交換会」を開催した。

「意見交換会」の様子

期日：平成１４年８月３１日（日）
会場：ＮＥＸＴ２１市民プラザ

当日は、１００名以上の市民参加を得て、通過者に対する意見や要望等を出し合いながらワークショップを行い、また、通過者も作品のコンセプト等を紹介しながら市民との意見交換を行った。

この意見交換会の運営についても「窓口委員会」が行ったが、既にいくつかのワークショップを運営したノウハウが活かされ、進行はスムースに行われた。

また「窓口委員会」では、この意見交換会に先立ち開催した「第一段階応募作品の展示会」の会場においても市民意見を募集しており、これらの意見も併せて、後に、第二段階競技応募要項の別冊となる「市民の想いⅡ」を編集

した。

しかし、市民の意見をどの程度作品に活かすかは、応募者に委ねることになることから、主催者としては、提案図書の中で応募者から「市民の想い」に関する対応について説明を求めることとした。

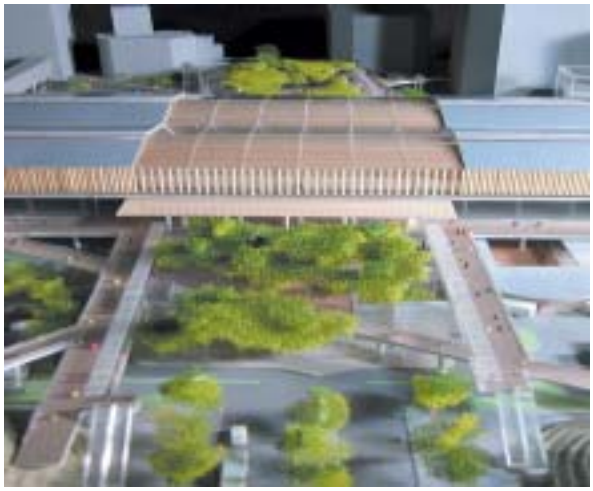
3.4　第二段階審査会

第二段階審査会の開催を控え、「窓口委員会」から主催者に対して最優秀賞選定の過程も公開して欲しい旨の申し入れがあった。

「第二段階審査会」の様子

期日：平成１４年１２月１５日（日）
会場：新潟市民芸術文化会館「能楽堂」

最優秀作品模型



主催者としても、当初から本コンペを可能な限り情報公開しながら進めていきたいと考えていたことから、審査委員各位の了解のもと、審査委員会を公開により開催し、多数の市民が見守る中、堀越英嗣氏グループの作品を最優秀賞として選定し、２カ年に及ぶ競技を終了した。

４　まとめ

関係者だけで進めがちであるコンペに市民参加を取り入れて行えた理由は、「窓口委員会」という市民による組織の役割が大きかった。行政と市民を取り持つ「窓口委員会」を設けることで、スムースな市民参加が可能になったものと考えられる。

現在、新潟駅コンペの最優秀作品を基に、平成１６年度の都市計画決定に向けて作業を進めている。

しかし、事業の完成までには長期間を要することから、その計画内容については今後の経済状況等の変化に伴い柔軟に対応していく必要がある。

その際には、本コンペに市民参加を取り入れたことや、最優秀作品に込められた市民の思いを活かしていくことは、主催者として重要なことと考えている。

そのため、コンペ終了から駅舎・駅前広場の完成までの各段階ごとに、コンペの目的や作品の意図を尊重し見守るための体制（市民・最優秀賞受賞者・主催者・協力機関等）とその役割、及び今後の進め方についても各提案者から具体的な提案を受けており、今年度は、その組織のあり方等について、さらなる検討を進めていく予定である。